

故甘粕健先生の業績と人柄を再確認

あさひまち展示館「甘粕先生の足跡展・関連講演会」に参加して

木村英祐



大阪からお出でいただいた宮川さん



荒天の中、会場はいっぱいに！

去る2013年11月10日（日）、新潟大学医学部において2013年あさひまち展示館企画展「古墳研究と文化財保存運動の先達 甘粕先生の足跡」関連講演会が開催されました。10月5日から12月1日まで開催されていた故甘粕健先生の企画展に関わって、宮川笹さん（文化財保存全国協議会元代表委員、現常任委員）と本会の橋本博文会長（新潟大学教授、旭町学術資料展示館長）のおふたりのお話を聞くことができました。

まずお話しになったのは、甘粕先生と同じく前方後円墳築造について研究され、長く一緒に文全協の代表委員を務められた宮川さんです。「今、世界遺産を目指す百舌鳥古墳群 戦中戦後の荒廃にはじまった文化財保存運動—甘粕健さんとの出会い—」と題し、世界遺産の暫定登録リストにのった大阪府堺市の百舌鳥古墳群を舞台に、甘粕先生とのエピソードを話されました。

戦前は112基以上を数えた百舌鳥古墳群は、戦時中の陣地構築や開墾などで破壊され、敗戦後も戦後復興の名の下に多くの古墳が土取り場にされたり区画整理で破壊され、現在47基まで減ってしまったと言います。戦時中、中学生

だった宮川さんはその当時の目撃経験から、大きくて特異なカギ穴形をしているいわゆる「仁徳天皇陵」が、日本本土に対するB29の爆撃コースのランドマークとされていた可能性を指摘します。戦後すぐの1946（昭和21）年、旧日本軍が高射砲陣地構築のため墳丘中央に巨大な縦坑と横穴を掘って未完成のまま放置されていた七観古墳で、その縦坑に鉄鏝が露出しているのを採取、敗戦後の最初の学術調査のきっかけを作ったのは、当時14歳の宮川さんでした。以来、同古墳群のいくつかの調査に参加し、のちの日本考古学会をリードする錚々たるメンバーとの交流を重ねてきました。

「わたくしたちの初めての出会いは、スパイ映画もどきにこうして始まったが、京都駅前の大衆食堂で、（中略）を話し合った。」（「イタスケ古墳 文化財保存の理念をめぐるたたかい」『明日への文化財』36・37合併号 1995年5月）という宮川さんと甘粕先生との出会いは1955（昭和30）年、同じ百舌鳥古墳群に残されたイタスケ古墳の保存運動がきっかけでした。古墳群中の主要な大型前方後円墳は「仁徳天皇陵」のように天皇陵や陵墓参考地に「治定」され、立ち入ることはできません。これらをのぞくと、イタスケ古墳は周濠を巡らせた完全な姿で残る唯一の古墳です。甘粕先生の支援を受けた宮川さんは運動の先頭に立ち、運動に関わる人々を保存一本でまとめ、古墳を破壊から救いますが、これがその後の日本の文化財保存運動の原点になりました。以来、甘粕先生は関東を中心に組織された文化財保存対策協議会の、宮川さんは関西文化財保存協議会の、それぞれの活動をリードします。1962（昭和37）年、平城宮跡の保存運動が全国的な波となったことをきっかけに、両者がひとつになって1970（昭和45）年、文化財保存全国協議会が結成されますが、おふたりはともに代表委員などとして全国の保存運動の先頭に立って活動してこられたのです。

こうした戦後の文化財保存運動を様々な裏話を交えながら語った宮川さんは、昨年亡くなった森浩一さんとのエピソードも交えながら、「甘粕先生の支えがあったから、イタスケ古墳でがんばれ

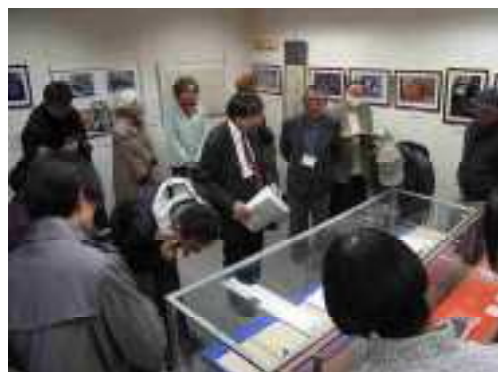
たし、市民中心の文化財保存運動に自信を持って取り組んでこられた。」と繰り返します。新潟でわたしたちを長く励まし続けてきた甘粕先生のお人柄を改めて確認するお話しでした。

続く橋本会長は「古墳研究と文化財保存運動の先達—甘粕健先生の足跡—」と題して、先生の来歴を紹介されました。このたびの展示会の準備の中で「発掘」された資料をもとに話されましたが、特に注目されるのが、イタスケ古墳の保存が問題となる前年の1954年の有志のミーティングに始まる「青年考古学協議会」の活動、「文化財保護問題懇談会」に関する資料です。こうした動きが、のちの「文化財保護対策協議会」の結成、そして「文全協」へとつながったことが説明されました。わたしたちの運動が当時の青年たちの熱い思いの中で産声を上げたことが実感されました。橋本会長のお話は時間の都合で走り走りのものになってしまいましたが、講演会終了後におこなわれた「橋本博文館長ギャラリートーク」では、あさひまち展示館の展示を見ながらくわしい説明がなされました。

残念ながら、企画展は12月をもって終了しましたが、先生の足跡からたくさんのお話を学ぶことができました。宮川さん・橋本会長のお話も大変有意義なものでした。こうした甘粕先生の遺志をしっかりと引き継ぎ、運動を進めていく必要性を改めて感じた半日でした。なお、奈良でも3月8日(土)に甘粕健先生追悼記念講演会が開催されます。ちょっと遠いですが、事務局メンバーは新潟から応援に駆けつける予定です。みなさんも、参加されませんか？



展示室で挨拶される宮川さん



橋本館長のギャラリートーク

甘粕健先生追悼記念講演会

考古学・古代史研究と古代遺跡

日時 2014年3月8日(土) 午後1時30分～

会場 奈良県教育会館4F大会議室 資料代500円

近鉄奈良駅から東へ徒歩5分

(奈良県文化会館西隣・奈良地方裁判所北側)

奈良市登大路町5-5 駐車場はありません

講演 「甘粕先生の古墳時代研究

—前方後円墳の形態と尺度を中心に— 新納 泉氏(岡山大学教授)

「王宮からみた倭王権の成立過程」古市 晃氏(神戸大学准教授)

「戦跡でもあった百舌鳥古墳群・戦後の文化財保存運動のはじまり

—甘粕健さんとの出会い— 宮川 渉氏(檀原考古学研究所共同研究員)

主催 文化財保存全国協議会 関西文化財保存協議会

連絡先 〒639-1042 大和郡山市小泉町2219-9 杉田 義

※詳細は同封のチラシをご覧ください。

TEL・FAX 0743-52-1404



春の平城宮跡大極殿(2013年3月)

一般の方も参加出来ます

東北・関東前方後円墳研究会 第19回大会(新潟大会)

のお知らせ

日時：2014年2月15日（土）・16日（日）

会場：新潟市歴史博物館 2階セミナー室（新潟市中央区柳島町2-10）

○大会シンポジウム

「古墳築造周縁域における古墳時代前・中期の社会と地域間関係」

新潟、山形、宮城、岩手など古墳が造られた北の周縁域は、古墳築造者と続縄文文化圏に属する集団とが接触する地域です。そうした状況を背景に、北の古墳築造周縁域の古墳時代前・中期の古墳や集落の動向、遺構・遺物の分布を整理し、他地域との比較を通じて、当地域の特性や地域社会の変化、地域間関係を明らかにします。

2月15日（土）13:00～16:10

〔基調報告〕

藤沢 敦「古墳文化と続縄文文化の相互関係」

滝沢規朗「続縄文土器と土師器の共伴事例からみた併行関係―越後の事例から―」

水澤幸一「縁辺の古墳と在地社会―越後城の山古墳を中心に―」

2月16日（日）9:30～15:50

〔基調報告〕9:30～11:35

高橋誠明「古墳築造周縁域の地域社会の動向―宮城県北部大崎地方を中心に―」

日高 慎「常陸の前期大型古墳と北方の地域社会」

橋本達也「九州南部における古墳築造の動態と南北周縁域の比較」

（昼食）11:35～12:50

〔総合討議〕12:50～15:50

パネラー：藤沢 敦・滝沢規朗・水澤幸一・高橋誠明・日高 慎・橋本達也・沢田 敦

司会：小黑智久・相田泰臣

編集後記

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には、可能な限りお送りして頂きます（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は、事務局までご一報下さい。

文化財保存新潟県協議会事務局（入会についてのお問い合わせも）

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/